

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.12	動作環境	機能変更	必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.5.2 に変更しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	Windows10の環境において、.NET Framework の追加インストールは必要なくなりました。
	瞬間復元ドライブ	機能追加	BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化により、ディスクが暗号化されたPCにて瞬間復元機能が動作するようになりました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	動作モードが修復無効モードの状態で瞬快クライアントがインストールされたディスクイメージを配信する際に、修復モードに変更して終了させる機能を追加しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	-	
	利用情報収集機能	機能追加	利用情報収集機能で収集されたデータをCSV形式でエクスポートするツール(UseInfoExport.exe)を作成しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライブ	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合でも、各PCのUEFIの仕様の違いより、瞬間復元機能が正常に動作しない場合があります。	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合、瞬間復元用のブートローダーを登録しない動作に変更しました。これにより、各PCのUEFIの仕様の違いによる影響を受けなくなります。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	Ver.11.5c以降であれば次のレジストリ設定を行うことで回避可能です。 【64bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\FYunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001 【32bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\FYunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001	
	クライアント	瞬快クライアントの動作モードを修復モードにすると、OS起動時にSDBUS.SYSの異常によるSTOPエラーが発生する場合があります。	瞬間復元ドライブインストール時および修復モードへの変更時に次のレジストリ設定を行うことで異常の発生を回避するようになりました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\sdstor\Parameters] "PackedCommandEnable"=dword:00000000	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	問題が発生する場合は、左記のレジストリを手動で設定してください。	
	クライアント	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	瞬間復元ドライブインストール時および修復モードへの変更時に、暗号化の自動開始を抑制するべく、OSの設定変更を行うようになりました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	修復モードの状態にて Microsoft Office 2019 の自動アップデート用のタスクが無駄に動作する。	次の Microsoft Office 2019 のアップデート用のタスクを、瞬間復元ドライブインストール時に無効化するようになりました。 %Microsoft%Office\Office Automatic Updates 2.0	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、設定の変更を行っていないにもかかわらず、CDドライブが修復対象外の設定に変わってしまう場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	稀な事象であり、瞬快のお客様からの発生報告は、9年間に3件です。
	ウイルス対策ソフト連携	WindowsDefenderに仕様変更があり、WindowsDefenderのエンジンの更新があった場合に、更新された内容が次の瞬間復元動作により元に戻ってしまう。	WindowsDefenderと共存するための定義を変更しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリクライアントインストーラ	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	システムリカバリクライアント機能をインストール時に次のレジストリ設定を行うことで自動開始を抑制するようになりました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\BitLocker] "PreventDeviceEncryption"=dword:00000001	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリサーバーインストーラ	システムリカバリサーバー機能は、版数アップ時に必ずアンインストールしてから新しい版数をインストールしなければならない。	システムリカバリサーバー機能の内部エンジンに変更が無い場合は、アンインストールせずに版数アップが可能となりました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	新しいシステムリカバリサーバーインストーラを実行すると、版数アップ可能な場合は処理が継続され、版数アップ不可な場合は、警告メッセージを表示して処理を中断します。処理が中断された場合は、システムリカバリサーバー機能のアンインストールを行ってからインストールを行ってください。
	システムリカバリ	ブートエントリにWindows Boot Manager が2つ存在する、異常なPCのディスクイメージを取得して配信すると、瞬快クライアント機能のインストールが正しく行われない。	Windows Boot Manager が2つ存在する場合は、ブートエントリ異常としてディスクイメージ取得が動作しないようになりました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリ機能の環境設定Wizardを使って、ディスクイメージのリソース保存場所変更を実施する際、データフォルダの新しい場所は指定できるが、ディスクイメージのデータは、あとから手動でコピーする必要がある。	新しいデータフォルダを指定した際に、イメージデータと関連するファイルも自動で移動されるように修正しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	機能変更	ディスクイメージ取得の際の通信プロトコルをUDPからTCPに変更しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上		
	システムリカバリ	ディスクイメージ取得したディスク内に含まれる、システムリカバリクライアント機能を利用する管理ファイルが、暗号化されていたり、圧縮されていたりすると、ディスクイメージ配信の時にエラーとなってしまう。 このため、暗号化や圧縮を解除して、再度ディスクイメージ取得をやり直す必要がある。	ディスクイメージ取得の時に、管理ファイルが暗号化されていたり圧縮されていたりする場合は、エラーメッセージを表示し、ディスクイメージ取得ができないように、プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化の機能が有効になっているクライアントの場合、ディスクイメージの取得前のチェックが実施されないことで、ディスクイメージの取得開始後もしくは配信時に失敗する。	ディスクイメージ取得前にクライアントの状態を確認し、暗号化機能が有効な場合はエラーメッセージを出すとともにバックアップが動作しないようになりました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	暗号化を解除してからディスクイメージを取得してください。
	リモート画面操作機能	キーマウスロック機能にて、タッチパネルの操作はロックできない。	タッチパネルの操作もロックできるようにプログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作機能のパネル表示にて、クライアントPC側のディスプレイのアスペクト比と、コンソール側の表示のアスペクト比が一致せず、表示領域が非効率になる。	アスペクト比のデフォルト値を16:9にしました。 また、カスタムでアスペクト比を指定できるようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	リモート画面操作機能	複数PC操作のレイアウト表示画面にて、背景に画像を設定していた場合、レイアウト表示画面をマウスのホイールでスクロールさせると、背景の画像が崩れる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	スクロールバーでスクロールを行ってください。	
	瞬快コンソール	1台の瞬快サーバに対して、複数のシステムリカバリコンソールから同時に接続できてしまい、それぞれのコンソールにて情報更新することで管理情報に矛盾が発生することがある。	システムリカバリコンソール起動中は瞬快コンソールを終了できないようにすることで、複数のシステムリカバリコンソールからの同時接続が発生しないようになりました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	複数のPCに瞬快コンソールをインストールしないことで回避可能です。	1台の瞬快サーバに対して、複数の瞬快コンソールから同時に接続することはできません。
Ver.12a	Windows OS	サポートOS追加	サポートOSとして「Windows 10 Pro for Workstations」を追加しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードで運用している場合に、sktsd.sysにて0x50のSTOPエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	2020年上期モデルの富士通製PCにて、標準設定の「A方式」にて修復モードにしようすると失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	復元方式を、「機能制限方式」にすることで回避可能です。	
	瞬間復元ドライブ	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,256Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、モード入り替えが失敗し、場合によってはWindowsが起動できなくなることがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダの修復モードで運用中、修復対象領域にて新規作成もしくは更新したファイルに、読み取り属性を付け、他のドライブへ移動しようすると、処理に失敗しファイルが消失する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	移動せずにコピーし、コピー後にコピー元を削除してください。	更新ファイルの場合、更新前のファイルは残ります。
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにすると、フォルダが50バイトのファイルに見える事象が発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	Avid社の音楽ソフトウェアのインストール環境にて発生することを確認しています。
	瞬間復元ドライブ	Windows 10 May 2020 Update (Version 2004)の環境において、メモリキャッシュ機能を有効にして修復モードにすると、システムイベントログに次のエラーが記録される。 ボリューム ボリューム (¥Device¥SKRamDisk) フル Chkdsk を実行するために、オフラインにする必要があります。コマンドラインで "CHKDsk /F" をローカルに実行するか、PowerShell で "REPAIR-VOLUME <ドライブ:>" をローカルまたはリモートで実行してください。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	修復モードではAutodesk社の2020年版ネットワークライセンス製品を起動できなくなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールに登録されている機器の「OS情報」にて、無線LANのネットワーク設定を「ネットワーク情報を更新する」に設定しても無線LANの「DNS」情報が更新されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールのスケジュール登録画面にて、アプリケーションエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理において、適用に1時間以上かかるような更新があった場合、クライアントPCが再起動を繰り返す状態になってしまふ場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理途中で、意図しないPCの再起動が行われると、WindowsUpdate連携の処理が失敗してしまふ。	意図しないPCの再起動が行われても処理を継続させるようにしました。	【版数】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携において、クライアント側で動作するBzWuAgent.exeがアプリケーションエラーにて終了してしまふ、WindowsUpdate連携のスケジュールが失敗で終わる場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作のグループの選択画面にてグループを選択すると、アプリケーションが異常終了する場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	サーバ機能	瞬快サーバ機能のインストール後、瞬快DBのインスタンスが起動しない状況となることがある。更に、当事象の発生時、OSが過負荷状態になることで他のプログラムを起動できない等の状況に陥ることがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	次のコマンドにてサービスプログラム「SQL Server (NEBULA2010DB)」の依存関係を変更することで対応可能です。 sc config MSSQL\$NEBULA2010DB depend= KeyIso	
	ウイルス対策ソフト連携	エフセキュア13.11のパターン更新に失敗することがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
Ver.12a+	サーバインストーラ	瞬快サーバ機能のインストール時に「データベースの構築に失敗しました」のメッセージが表示され、インストールに失敗する場合があります。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12b	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、1つのフォルダ内に、同じ文字列から始まるファイル名のファイルが、大量に作成、削除を繰り返されると、作成、削除の回数に比例し処理速度が劣化する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	次の3つの条件を全て満たす場合に、瞬間復元ドライブのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しない場合があります。 ・ポートエントリが数百個以上存在している ・瞬快のマルチポート設定をしている ・パーティション単位の修復モード、もしくは、ファイルフォルダ単位の更新モードにしている	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライブ	Comet Lake に対応したプラットフォームであり、かつ、UEF環境の場合、次の何れかの復元設定を行うと、瞬間復元ドライブのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しなくなるなどの問題が発生する。 ・ファイルフォルダ単位での更新モードにした ・パーティション単位にて毎回起動時修復以外の修復設定を行った ・パーティション単位にて更新モードにした ・パーティション単位にて修復ポイントの設定を行った	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	HP社製PC等の復元方式をA方式にすると正常に瞬間復元機能が動作しないPCにおいて、A方式にしてドライブ異常が発生させ、この状態から版数アップを行った環境の場合、修復無効モードに変更すると十数秒で修復モードに戻ってしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	機能制限方式に切り替えてから版数アップを行ってください。	
	瞬間復元ドライブ	富士通製の2020年下期モデル以降のESPRIMOにてマルチブート環境を構築した場合に、瞬快でのマルチブートの切り替えができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	次の3つの条件を全て満たす場合に、PCがフリーズする可能性がある。 ・OSが Windows 10 である ・Windows Defender を使用している ・ファイルフォルダ単位の修復モードにしている	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12c	リモート画面操作機能	機能改善	通信量を最適化すべく、モニタリングや遠隔操作を行う際の画像品質を細かく設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	-	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールの機器管理にて機器情報をエクスポートする際、出力形式に参照用を指定すると、エクスポートされたCSVファイルのカラム名が間違っている。 【誤】 29カラム目:ネットワーク接続名 30カラム目:DNSのDHCPフラグ 【正】 29カラム目:DNSのDHCPフラグ 30カラム目:ネットワーク接続名	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	レガシーブートの環境にて修復モードに変更しようとした際に、環境によっては、次のメッセージが表示されてへ修復モードへの変更に失敗する。 [内容] 以下のファイルのコピー処理に失敗した可能性があります。 [コピー先ファイルパス] C:\ProgramData\Fsyunkai Product\Agent\Env\FKSETTINGDATA.DAT	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通		
	瞬間復元ドライブ	次の3点の条件を全て満たす場合、3点目の変更指示後の2回目のOS起動タイミングより、黒画面で停止しOS起動しない状態となる。 ・レガシーBIOSもしくはBIOS互換の環境である。 ・瞬快のポリシーエディタにて「ディスク容量警告の閾値」を5%以下にしている。 ・更新モードもしくはパーティション単位の修復モードに変更した。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	「ディスク容量警告の閾値」は6%以上にしてください。 当事象が発生した場合、MBRを初期化することで修復無効モードで起動させることが可能です。	
	瞬間復元ドライブ	環境によっては、ファイルフォルダ単位の修復モードに切り替えると0x7f(スタックオーバーフロー)のSTOPエラーが発生する。	スタックの消費量を削減しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	リモート画面操作での「コマンド」実行機能では、管理者への昇格が必要なコマンドを実行できない。	「コマンド」実行機能にローカルシステム権限にて実行するオプションを追加しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	Version1803以降のWindows10のクライアントPCを遠隔操作する場合において、コンソールPCとクライアントPCにて、NumLock、CapsLockもしくは ScrollLockの状態が一致しない場合、関連するキー入力がクライアント側へ正しく伝わらない。	クライアント側のNumLock、CapsLockおよび ScrollLockの状態をコンソール側と同じにするための機能を、遠隔操作時の「特殊キー」を送信するボタンに追加しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	ドリームクラブ社のSafetyAnchorと同居したクライアント環境では、Windowsからのサインアウトに時間がかかる、もしくはWindowsからサインアウトできない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	ツール	NcDBLoader.exeコマンドによる、瞬快サーバのDBのエクスポート、インポート処理にて、次の情報が処理されていない。 ・システムリカバリのクライアントPCの詳細設定情報 ・システムリカバリのクライアントPCの無線LAN情報 ・システムリカバリのクレードル情報	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ配信においてOfficeのMAK認証を実施する際、Officeのライセンスが必要以上に消費される場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ配信において瞬快クライアントを修復モードに切り替える際、処理に失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	クライアントPCに有線LANと無線LANの両方を設定している場合、2つ目のNICに、システムリカバリコンソールのクライアントPCのプロパティを開き、クライアントPCの詳細設定を変更しても変更されない。		【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	WindowsUpdate連携	スケジュール作成時に、認証が必要なプロキシを設定した場合、設定内容によっては、当該スケジュールの編集の際にプロキシ設定の画面を開くと、瞬快コンソールが異常終了する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	